

加賀藩の江戸屋敷学ぶ 高砂大学校同窓会が集い



金沢市民の充実した生涯学習をサポートする高砂大学校同窓会は二十八日、市文化ホールで集いを開いた。郷土史の専門家で、地域文化総合研究所代表の長谷川孝徳さんが「加賀藩の江戸屋敷と藩士の生活」と題し、講演した。

長谷川さんは、東京大の

高砂大学校同窓会が開いた集い。約350人が講演に耳を傾けた。金沢市文化ホールで

本郷キャンパスについて

「江戸を身近に感じることのできる名所の一つ」と紹介。赤門や育徳園心字池(三四郎池)は「加賀前田

家本郷邸を今に伝える第一級の遺構」と解説した。

また、加賀藩には上屋敷、中屋敷、下屋敷に加え、抱屋敷や米屋敷もあったと説明。「これらの屋敷地は火災などで度々、場所が変遷したが、本郷キャンパスにあった屋敷は最も長期にわ

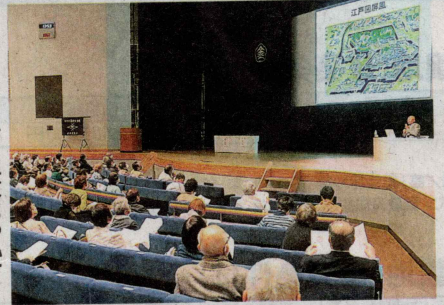
たって加賀藩の江戸屋敷だった」などと語った。

会場では約二百五十人が講演に耳を傾けた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、座席の間隔を空け、体温チェックや手指消毒を徹底した。

(前口憲幸)

北陸中日新聞
北国新聞

加賀藩の江戸屋敷について
学ぶ参加者―市文化ホール



加賀藩江戸屋敷学ぶ
高砂大学校同窓会

高砂大学校同窓会のリーダ―研修会(北國新聞社後援)は28日、市文化ホールで開かれ、約350人が加賀藩の江戸屋敷に理解を深めた。地域文化総合研究所(小矢部市)の長谷川孝徳代表が講師を務め、現在の東大本郷キャンパスの場所

にあった本郷邸、江戸屋敷として最大級の規模を誇った平尾邸など、図を交えて屋敷の特徴を解説した。